第9回「大学の盆踊りはこんなに変わった」

野溝真由美さん

「鼓友」や大正大学について聞いてみました！

大正大学の学生が地域の方と活動をしていくために必要なことは何かを探る連載、「**おうだい３meets**」。第9回は、巣鴨近辺の様々なお祭りで和太鼓を披露してくださっている、巣鴨太鼓組「鼓友」に所属する野溝真由美さんにお話を聞きました。

お話しいただいた人

野溝真由美さん

夫婦で和菓子屋「松月堂」を切り盛りしている。高校生のころから「鼓友」に所属し、現在も積極的に活動に参加している。

お母様が「つぼみの会」に所属し、旦那様は「鼓友」の前会長というお祭りサラブレッド。趣味はもちろん和太鼓。

インタビュアー

竹ノ谷広輝

人間学部教育人間学科4年。

趣味はギターを弾くこと。雨より晴れが好き。

五十嵐泰一

仏教学部仏教学科4年。

趣味は自転車での旅、読書。インタビューも大好き。

1.　「鼓友」と大正大学の今昔

鴨台盆踊りと関わるようになったきっかけは何ですか？

「鼓友」に所属していたのもありますし、母が「つぼみの会」に入っているのでそのつながりもあります。今年、親子で鴨台盆踊りに出させていただきます。

そうなんですね！　よろしくお願いします。

私は巣鴨が地元なので大正大学にも馴染みがあって、ご招待いただき参加する、というのは自然な流れでしたね。あの佐渡の「鼓童」さんとコラボがあった時も呼んでいただきました。

「鼓童」さんは和太鼓のプロ集団で、よく「鼓友」さんと練習されてるという団体ですよね。

そうですね。大正大学にも「鼓鴨」さんという太鼓のサークルがあるじゃないですか。それが誕生したのがきっかけで、コロナ禍の前は私たちも週に一回くらい練習場所をお借りしていました。

３号館の地下に和太鼓がたくさんありますね。ちなみに今回鼓友さんは何を披露してくださるのですか？

曲に合わせて太鼓を叩く「曲打ち」と、10分間お時間いただけるそうなので、私たちがいつもやっている「組太鼓」という手を披露させていただく予定です。

「鼓友」さんの演奏の様子、写真後方の一番左が真由美さん

写真提供　野溝真由美さん

ありがとうございます。

鴨台盆踊り以外でもいろいろご出演されていたんですよね？

今までは各地の盆踊り、お祭りイベント等に呼んでいただきました。この地蔵通り商店街の盆踊りにも出演しています。

巣鴨納涼盆踊り大会ですよね。

そうです。毎年それを軸に活動していました。あとは9月に大塚の天祖神社さんの大祭があって、そのお祭りでも叩かせてもらっていました。お神輿も出るようなお祭りで結構賑やかでしたね。

すごい、夏は大忙しですね！

でも、コロナでそれらのお祭りもピタッとなくなって。なので鴨台盆踊りから出演の招待が来たときは嬉しかったですね。

よかったです！ 鴨台盆踊りで大正大学に抱いたイメージはありますか？

昔から知っていますが、今は女子大生が増えたなあって印象ですね。昔は男子ばっかりで、坊主の子が多くて。女子もいたんですけど、垢ぬけた女子大生というか、そういう子は少なくて、すごく真面目な学生が多い印象でしたね。

そうだったんですね！

だから鴨台盆踊りや、鴨台祭に行ったときに、キラキラしたかわいい女の子がたくさんいて驚きました。

そんなに驚くほど変わったとは・・・。

インタビューの様子

2. 鴨台盆踊りはこんなに変わった！

先ほど女性が増えたとおっしゃってたように、大正大学では、昔と今で変わった点が多いんですよね。鴨台盆踊りの運営のスタイルも、昔は地域の方と学生が共同して一緒に準備などしていたのですが、今はほとんど学生が主体となって運営しています。このように変わっていく大正大学をどのように感じますか？

それに関しては、私はいいことだと思っています。初めは学生さんたちに「やらされてる感」がちょっとあって、別に踊りたくないけど単位のためにやってるみたいな（笑）。

そうだったんですね。

でも今は学祭みたいな感じで、司会の方がマイクで一生懸命盛り上げていて、男性も女性もみんな浴衣着て、全員で盛り上げていく姿がすごくいいなと思いました。授業だけど楽しんでやっている、というのが見受けられました。

みなさん主体的に運営しているので、おっしゃる通りだなと思います。

雨が降り出しても「もう一曲いきましょう！」って言っていたときもあったし、熱意がありますよね。曲も、J-POPなど取り入れていて、新しい感じがあってノリノリですしね。
板東扇太恵先生がそういうのを取り入れていると思うんですけど、参加者の皆さん全員が曲に乗って踊っていて、見ているだけで楽しいんですよ。だから私たちも参加したいって思えるような人気があるんじゃないかと思います。

3. 地域との交流を絶やさずに

野溝さんが「鼓友」に入られたきっかけはなんですか？

子どものころにお祭りで太鼓を叩いてるところを見て、かっこいいな、自分もやりたいなって思いましたね。それで高校受験が終わった頃に入りました。

なるほど。やっぱり子どもの頃の経験とか体験って大事ですよね。

お祭りが身近にあったというのは大きいかもしれないですね。幼い頃から周りの人たちが太鼓とか踊りとかをやっている環境だったので。巣鴨はそういう昔ながらの伝統とか風情が残っている町ですね。

そうですね。では、その巣鴨の地域と大正大学がこれからも共に活動していくために必要なことは何だと思いますか？

コロナが収束する前提の話になっちゃうんですけど、イベント等が復活して、それに呼んでいただくことで学生さんたちと以前よりも交流ができたらいいなと思いますね。

「鼓友」さんとですか？

「鼓友」だけじゃなくて地蔵通り商店街全体とが望ましいですね。大正大学さんのイベントだけじゃなくて、商店街のイベントにも是非、学生さんたちに参加していただいて、賑やかしてもらいたいです！

いろんなイベントを通して商店街と大正大学との交流を深めていきたいですね。それでは、これからの大正大学の鴨台盆踊りに期待していることはありますか？

できれば外で二階建てのやぐらを組んで、一般のお客さんと学生さんが気兼ねなくみんなで楽しめるような形に戻ってほしいですね。盆踊りはたくさんの人と一緒にやぐらを囲んで踊るのが醍醐味なので。

そうですね。一日でも早くコロナが収束することを願いましょう！

ありがとうございました。

野溝さん夫妻が経営する和菓子屋「松月堂」

今回のインタビューは「鼓友」に所属し、生まれてからずっとこの巣鴨で生活を続けてきた野溝真由美さんにお話を聞きました。大正大学の変化や「鼓友」の活動について、ずっと生の現場を見てきた方の声を聞けてとても新鮮で楽しかったです。

野溝さんの弁口から本当にお祭りが好きなんだという気持ちが感じられ、後の世代にお祭りのすばらしさを残すためにも、大正大学は巣鴨の方たちと連携して伝統を残していかなければならないと感じました。

記事　人間学部教育人間学科４年　竹ノ谷広輝

お話を聞いた日　2021年7月10日